

九州大学との連携推進について

令和元年11月18日
総合教育会議

自治戦略課

1

九州大学と連携協力協定を締結

組織ぐるみで**連携・交流を推進**【平成31(2019)年3月18日締結】

連携協力事項

1. 九州大学と大野城市が有する資源の相互活用
2. 九州大学と大野城市民との交流の推進
3. 筑紫キャンパス周辺地域の環境整備とまちづくり
4. その他、九州大学と大野城市が必要と認める事項

2

九州大学と大野城市民との交流の推進

(にぎわいづくり)

① 九州大学筑紫キャンパス「キャンパス開放」への参画

【令和元(2019)年5月18日(土)】

- 「大学院総合理工学府入試説明会」の開催や、「大学院受験相談コーナー」を特設
- 筑紫キャンパスは、「おもしろ科学実験」、外国人留学生会による国際色豊かな「ゲームをしながら世界について学ぼう」コーナー、「巨大プラズマ実験装置」などのイベントを実施
- 本市は、大野ジョーくんのステージや、「鶏ぼっかけ」の販売を実施
- また、「キャンパス開放」のチラシを校長会で配布

3

九州大学と大野城市民との交流の推進



- 研究室の大学院生が実施した、子ども達との科学実験の様子



- 当日は、小学生や保護者の来場者が増加し、全体で800名を超える来場があった。

4

九州大学と大野城市民との交流の推進

(にぎわいづくり)

② ふるさと館1周年イベントへ**筑紫キャンパス研究室の参画**

【令和元(2019)年7月23日(火)】

- 九州大学筑紫キャンパス研修室による子ども向けの「スーパーボール作り」、「スライム電池作り」の2つのワークショップを実施
- 「スーパーボール作り」約600名、「スライム電池作り」約400名、保護者を含む合計のべ1,000名の参加

5

九州大学と大野城市民との交流の推進

(国際交流)

① スピーチコンテストにおける**外国人留学生会との交流事業**

【令和元(2019)年11月3日(日)】

- 英語・日本語スピーチコンテストにおいて、外国人留学生会(KIISA)による異文化紹介などを実施

6

九州大学と大野城市民との交流の推進



- 留学生会の皆さんが、自分たちの国にまつわる「YesNoクイズ」を実施



- 留学生による「日本に来た経緯」や「日本に来てからのこと」についての、スピーチの様子

7

九州大学と大野城市民との交流の推進

【今後の交流見込】

(教育)

- ① ランドセルクラブ事業への九州大学院生の参画

- 九州大学院生による体験学習の実施に向けて現在協議中

8

九州大学と大野城市民との交流の推進

【今後の方向性】

九州大学筑紫キャンパスの「**理工学系**」、「**外国人留学生**」といった「**強み・人材**」を活かし、小中学生の学習活動などの分野において連携を図っていく

(例)

- 九州大学院生による体験学習などを通して、理工学への興味や高等教育への興味をもってもら
- 外国人留学生との交流を通して、国際感覚、共生社会などについて、考える機会に

⇒九州大学院生や外国人留学生との交流が**小中学生の感動体験**となり、**市独自のふるさと意識につながる**ように

国立大学法人九州大学と大野城市との連携協力に関する協定書

国立大学法人九州大学（以下「九州大学」という。）と大野城市は、相互の連携協力について、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、九州大学が有する知的・人的資源と、大野城市の自然豊かな地域資源や文化を有機的に結び付け、産業の振興、地域課題の解決、教育研究活動その他の地域社会の振興に寄与することを目的とする。

（連携協力事項）

第2条 九州大学と大野城市は、前条の目的を達成するため、次の事項について連携協力を行う。

- （1）九州大学と大野城市が有する資源の相互活用
- （2）九州大学と大野城市民との交流の推進
- （3）筑紫キャンパス周辺地域の環境整備とまちづくり
- （4）前3号に掲げるもののほか、九州大学と大野城市が必要と認める事項

（協議）

第3条 この協定の具体的事項の実施及びこの協定に定めのない事項については、九州大学と大野城市の協議により定めるものとする。

（有効期間）

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から2020年3月31日までとする。ただし、期間満了の日の3カ月前までに、双方のいずれからも何らかの申し出がないときは、更に1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の締結の証として、本協定書2通を作成し、双方が署名の上、各自その1通を保有する。

2019年3月18日

国立大学法人九州大学総長

大野城市長

九州大学との連携事業概要

協力事項	実績（過去の経緯）	令和元年度	今後の交流見込
<p>(1) 九州大学と大野城市が有する資源の相互活用</p>	<p>(にぎわいづくり) ①官学連携共同研究プロジェクト (H21～22) ・九州大学分権型社会論ゼミと共同で観光分野について研究 (九州大学の学生と市の職員という人的・知的資源の交流と活用)</p> <p>(母子保健) ①CARE【子どもと大人の絆を深めるプログラム】 (H25～) ・九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学 木村助教 の研究に市が協力する形式で実施 ・平成29年度までで、延べ144名が参加</p> <p>(文化財) ①埋蔵文化財分析業務委託 (H23～) ・原口遺跡第4次調査出土人骨保存・分析業務 ・薬師の森遺跡第16・32次調査出土人骨保存・分析業務 ・古野遺跡第2次調査出土人骨保存・分析業務 ・瑞穂遺跡第7・8次調査出土人骨保存分析業務 ・後原遺跡第23次調査出土人骨保存分析業務 ・古野遺跡第7次調査出土人骨保存分析業務 ・乙金地区遺跡群生産関連遺構出土須恵器胎土分析業務 ・乙金地区遺跡群消費地関連遺構出土須恵器胎土分析業務</p> <p>(行政評価) ①公共サービスDOCK事業 (H29～) ・九州大学大学院経済学研究院 村藤功教授が委員長を務める公共サービス改革委員会による総合型の行政評価。</p>	<p>(にぎわいづくり) ①心のふるさと館と九州大学総合研究博物館との連携事業 ・令和2年度の特別展において、九大博物館所有の標本・資料の展示を行う ・今後、心のふるさと館と九大博物館との間における、館同士の連携協定の締結も検討する</p> <p>(長寿支援) ①住民の健康改善に資するエビデンス創出を目指した多地域コホート研究 ・九大大学院医学研究院 総合コホートセンターが実施するレセプトデータを活用した健康寿命等の分析への参画</p> <p>(ふるさと館) ①第58回九州大学付属図書館貴重文物展示への特別協力 ・目加田誠「北平日記」原本等の貸し出し</p>	<p>(広報) ①「九大広報」「広報大野城」への相互掲載 ・九州大学に在籍される各教授の特色ある研究内容について、広報での紹介・特集記事の作成に向けて協議</p>
<p>(2) 九州大学と大野城市民との交流の推進</p>	<p>(国際交流) ①外国人向け防災啓発講座 (H27～) ・平成27年度:九州大学大学院総合理工学府に周知(参加者なし) ・平成28年度:九州大学大学院総合理工学府院生参加 ・平成29年度:九州大学大学院総合理工学府院生参加</p> <p>②第2次国際化推進プラン策定事業 (H30) ・委員長に九州大学大学院総合理工学府院 萩島教授が就任 また、委員として院生の留学生も就任 ・ワークショップも連携して実施</p>	<p>(にぎわいづくり) ①九州大学筑紫キャンパス「キャンパス開放」への参画 ・オープンキャンパスにおいて、大野ジョー・くんのダンスステージや、「鶏ぼっかけ」の販売を実施</p> <p>②大野城心のふるさと館1周年記念イベントへ筑紫キャンパス研究室の参画 ・ふるさと館1周年イベントにおいて、九州大学筑紫キャンパス研修室による子ども向けの「スーパーボール作り」「スライム電池作り」などのワークショップを実施</p> <p>(国際交流) ①スピーチコンテスト事業における外国人留学生会との交流事業 ・スピーチコンテストにおいて、外国人留学生会による異文化紹介などを実施</p>	<p>(教育) ①ランドセルクラブ事業への九州大学院生の参画 ・ランドセルクラブ事業において、九州大学院生による体験学習の実施に向けて協議</p>
<p>(3) 筑紫キャンパス周辺地域の環境整備とまちづくり</p>	<p>(都市計画) ①九州大学筑紫地区フレームワークプラン2016 ・本部 キャンパス計画室 坂井猛教授とともに、都市と大学双方の持続可能な発展を可能にする骨格形成のための土地利用計画と動線利用計画を策定</p>	<p>(都市計画) ①九州大学筑紫地区キャンパスマスタープラン検討会への参画 ・キャンパス計画室 坂井猛教授とともに、2016年に策定された「九州大学筑紫地区フレームワークプラン」を拠り所に、10～15年度のキャンパスの将来像とそれを実現するためにキャンパス全体の整備・活用を図る基本的な計画を策定</p> <p>(高架下活用) ①高架下利用まちづくり会議 (H29～) ・アドバイザーとして九州大学持続可能な社会のための決断科学センター高尾忠志准教授が就任</p>	



NEWS

[トップページ](#) > [NEWS](#) > [トピックス](#) > [大野城心のふるさと館開館1周年記念イベントに参加](#)

トピックス

トピックス

公開日：2019.08.20

大野城心のふるさと館開館1周年記念イベントに参加

トピックス

令和元年7月23日(火)、大野城市との連携協力協定(平成31年3月18日締結)に基づき、「大野城心のふるさと館」開館1周年記念イベントに、九州大学筑紫キャンパスの先導物質化学研究所から、岡田重人教授研究室の大学院生による「スライム電池を作ってみよう!」、永島英夫教授研究室および國信洋一郎教授研究室の大学院生による「科学で遊ぼう〜スーパースーパーボール作り」の2チームが参加し、ワークショップを行いました。

地域の小学校が夏休みに入って最初の週にあたるこの日、岡田重人研究室の「スライム電池を作ってみよう!」には約400名、永島英夫研究室および國信洋一郎研究室の「科学で遊ぼう〜スーパースーパーボール作り」には約600名、合計のべ1,000名の父兄を含む参加者で会場はにぎわいました。

午前10時からのワークショップ開始時間の直後にできた長い列は、終了予定時間を超えた午後4時30分まで、全く途切れることはありませんでしたが、大学院生達の丁寧な対応により参加した親子の皆様は楽しく体験していました。

本イベントにより、九州大学筑紫キャンパスの存在が、科学の楽しさとともに、参加してくれた大野城の子もたちの心のふるさとのひとつとして、あり続けるきっかけになったことは間違いないでしょう。

参考:

大野城心のふるさと館 開館1周年記念イベント
開催日時: 令和元年7月20日~令和元年7月28日
講演会、ラジオ公開生放送、ワークショップの開催
<http://onoio-occm.jp/>

ワークショップの様子



お問い合わせ

